

1. 件名：特定原子力施設監視・評価検討会（第83回）に係る面談（2回目）
2. 日時：令和2年9月8日（火） 15時00分～16時40分
3. 場所：原子力規制庁18階会議室
4. 出席者

原子力規制委員会

田中委員、伴委員

原子力規制庁

櫻田原子力規制技監

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

竹内室長、岩永企画調査官、濵谷企画調査官、林田管理官補佐

田上係長、久川係員

福島第一原子力規制事務所（テレビ会議システムによる出席）

小林所長、坂本原子力運転検査官

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

小野CDO他プロジェクトマネジメント室6名（テレビ会議システムによる出席）

福島第一原子力発電所9名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

○東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から、次回（第83回）特定原子力施設監視・評価検討会（以下「検討会」という。）の議題に関し、資料に基づき以下の説明を受けた。

- 福島第一原子力発電所 固体廃棄物の保管管理計画の改訂及び廃棄物の再利用の考え方について
- 至近のプラント状況や試験結果を踏まえた実施計画Ⅲ 第1編 第18条、第19条、第25条の変更について
- 地震・津波対策の進捗状況
- 福島第一廃炉推進カンパニーの組織改編後の状況について
- 建屋滞留水処理等の進捗状況について
- 1/2号機 SGTS配管撤去に向けた今後の調査方針について
- 3号機 燃料取り出しの状況について
- ALPS処理水の全ベータ値と主要7核種の合計値のかい離について

○田中委員から、以下の内容についてコメントした。

- 将来的な処理・処分に向けて、固体廃棄物については核種分析等を行うことで性状把握に努めること。

○伴委員から、以下の内容についてコメントした。

- 8月に提出されたLCO見直しに係る実施計画の変更認可申請は、第81回の検討会を踏まえ、現状のリスクを考慮したときに明らかにかい離のある設定がされてお

り早急に見直しが必要なものの変更であることから、既存の水素発生量評価の条件などにおける現在の状態とかい離のある点を明確にした上で変更内容を説明すること。

- 3.11 級津波対策として実施している滞留水の流出防止対策について、新しい津波の評価結果を踏まえた上で開口部の閉止ができないことによる影響を説明し、対応策を説明すること。

○原子力規制庁より、以下の内容についてコメントした。

- 廃棄物の保管管理については、主に処理・処分に向けた性状把握の実施について議論することとしたい。
- 再検討が必要としている窒素封入の確保に係る PCV 圧力の管理他の安全上の影響について具体的に示すこと。
- 新規に設置を予定している日本海溝津波防潮堤を建屋滞留水流出防止対策の一部とするのであれば、耐震性等の設計方針について示すこと。
- 1/2 号機 SGTS 配管撤去に向けた今後の調査方針については、実施が延期となったガンマ線スペクトル測定の結果を踏まえて内容を確認し、次々回以降の検討会において議論することとしたい。

○東京電力より、コメントについて検討の上、検討会に向けて準備を行う旨の回答があった。

6. 資料

- 福島第一原子力発電所 固体廃棄物の保管管理計画～2020 年度改訂について～(案)
- 至近のプラント状況や試験結果を踏まえた実施計画Ⅲ 第 1 編 第 18 条, 第 19 条, 第 25 条の変更について (案)
- 地震・津波対策の進捗状況 (案)
- 福島第一廃炉推進カンパニーの組織改編後の状況について (案)
- 建屋滞留水処理等の進捗状況について (案)
- 1/2 号機 SGTS 配管撤去に向けた今後の調査方針について (案)
- 3 号機 燃料取り出しの状況について (案)
- ALPS 処理水の全ベータ値と主要 7 核種の合計値のかい離について (案)